

-----  
[ 成果情報名 ] 福岡県における茶品種「はるみどり」の煎茶およびかぶせ茶としての特性  
[ 要約 ] 茶品種「はるみどり」は、煎茶およびかぶせ茶として「やぶきた」より萌芽期および摘採期が5～6日遅い晩生品種である。一番茶の収量はほぼ同等であり、荒茶品質は外観の色沢が鮮緑色で優れる。内質は同等であるが異なった香気を有している。

[ キーワード ] 茶、晩生品種、はるみどり、煎茶、かぶせ茶

[ 担当部署 ] 八女分場・茶チーム

[ 連絡先 ] 0943-42-0292

[ 対象作目 ] 茶

[ 専門項目 ] 品種選定

[ 成果分類 ] 品種選定  
-----

[ 背景・ねらい ]

本県で栽培される茶品種は、「やぶきた」が約80%を占めているため、摘採や製茶時期が集中し、過重労働を招いている。これらを改善するためには、「やぶきた」と組み合わせることができる優良な早・中・晩生品種の導入による摘採期間の拡大が必要である。

そこで、新たに育成された茶品種「はるみどり」について、本県における適応性を検討し、推奨品種に選定して普及を図る。

[ 成果の内容・特徴 ]

中生品種「やぶきた」と比較した「はるみどり」の特性は、以下のとおりである。

- 1．萌芽期および煎茶の一・二番茶の摘採期は6日遅く、かぶせ茶の摘採期は5日遅い晩生品種である（表1）。
- 2．煎茶およびかぶせ茶の生葉収量は、ほぼ同等である（表1）。
- 3．炭疽病抵抗性は「やや強」であり、裂傷型凍害に対しては「強」である（表1）。
- 4．煎茶の荒茶品質は、一番茶の外観では色沢が鮮緑色で優れる。内質ではほぼ同等であるが、異なった香気を有する。二番茶でも色沢が優れる。かぶせ茶の荒茶品質は、外観では色沢が鮮緑色で優れるが、内質ではほぼ同等である（表2）
- 5．煎茶およびかぶせ茶の荒茶の化学成分は、タンニン含有率がやや低い傾向である（表3）。

[ 成果の活用面・留意点 ]

- 1．茶品種「はるみどり」は、県内茶産地全域で栽培可能である。
- 2．本県の推奨品種に選定するための資料として活用できる。
- 3．剪枝後の回復がやや劣るので、中切り更新する場合は一番茶後に行う。

[ 具体的データ ]

表 1 萌芽期・摘採期および生葉収量

茶期	茶種	品 種 名	萌芽期 (日)	摘採期 (日)	生葉収量(kg / 10a)		炭疽病 抵抗性	裂傷型 凍 害
					14年	15年		
一 番 茶	煎茶	はるみどり	+ 6	+ 6	403(103)	501(105)	やや強 弱	強 弱
		やぶきた	0	0	392(100)	479(100)		
一 番 茶	かぶ せ茶	はるみどり	+ 6	+ 5	443(102)	543(102)	-	-
		やぶきた	0	0	434(100)	534(100)	-	-
一 番 茶	煎茶	はるみどり	-	+ 6	304( 96)	310( 91)	-	-
		やぶきた	-	0	316(100)	340(100)	-	-

- 注) 1. 萌芽期および摘採期は「やぶきた」を基準とし、+は遅いことを示す。  
 2. 生葉収量の( )内は「やぶきた」を100とする指数  
 3. かぶせ茶はキョロネットによるトンネル(14年)または直接被覆(15年)を摘採前に10日間行った。

表 2 荒茶品質(官能評価) (3カ年平均)

茶期	茶種	品 種 名	外 観		内 質			合 計	備 考
			形状	色沢	香気	水色	滋味		
一 番 茶	煎茶	はるみどり	19.5	20.0	19.5	19.8	19.6	98.4	鮮やかな緑色、香気特色 色沢ややアメ色
		やぶきた	20.0	18.7	19.9	19.6	19.8	98.0	
一 番 茶	かぶ せ茶	はるみどり	19.7	20.0	19.5	19.5	19.4	98.1	色沢鮮やかな緑色
		やぶきた	20.0	18.5	19.5	19.9	19.6	97.5	
一 番 茶	煎茶	はるみどり	20.0	20.0	19.9	19.5	19.5	98.9	色沢濃緑色
		やぶきた	19.3	18.6	19.8	19.8	19.3	96.8	

注) 官能評価は普通審査法で行い各項目20点満点

表 3 荒茶の化学成分含有率(%) (3カ年平均)

茶期	茶種	品 種 名	全窒素	アミノ酸	テアニン	カニン	カフェイン
一 番 茶	煎茶	はるみどり	5.3	2.8	1.6	12.6	2.8
		やぶきた	5.4	2.2	1.3	14.9	2.6
一 番 茶	かぶ せ茶	はるみどり	5.6	3.1	1.8	10.9	2.9
		やぶきた	5.4	2.9	1.7	12.9	2.6
一 番 茶	煎茶	はるみどり	4.6	1.4	0.7	15.2	3.2
		やぶきた	4.1	0.7	0.3	16.6	3.0

注) 近赤外分析法により分析

[ その他 ]

研究課題名: 茶の優良品種の選定  
 研究区分: 経常  
 研究期間: 平成15年度(平成6~15年)  
 研究担当者: 中村晋一郎、久保田朗、吉岡哲也、堺田輝貴